

秋田の土地改良

2

2011・FEB



4月号(第464号)



7月号(第465号)



10月号(第466号)

平成22年度発行の表紙写真



私たちは、農業水利施設の「ゴミゼロ」対策に取り組んでいます。

目次

21創造運動全国セミナーが開催される…………… 2	第2回秋田県地区小水力発電推進協議会…………… 9
「大館市土地改良区」に合併認可書を交付…………… 3	平成22年度秋田県農業集落排水連絡協議会担当者研修会を開催 ……10
平成22年度秋田県水土里情報活用推進協議会通常総会を開催 …… 3	非補助農業基盤整備資金の活用について…………… 11
特集：農業水利施設内の「ゴミ」問題(シリーズ④)…………… 4	「水土里の語り部交流会」を由利本荘市で開催…………… 13
平成22年度「災害復旧技術向上のための講習会(秋田会場)」… 8	第4回理事会・会員だより…………… 13
平成22年度秋田県農村総合整備センター研修会を開催 …… 8	連合会日誌・インフォメーション…………… 14



21創造運動全国セミナーが開催される!

表彰は、稲川(21創造運動大賞)、七滝(さなえ賞)が受賞



▲水土里ネット七滝 武藤理事長

12月16日～17日の2日間に亘り、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に、全国水土里ネットの主催による「21創造運動全国セミナー」が開催され、全国の21創造運動担当者など約90名が参加した。

21創造運動は、平成14年からスタートして9年目を迎え、運動の立ち上げとして、愛称「水土里ネット」や「さなえマーク」の使用が、ほぼ日常的になって来ていることから、一応の成果が現れてきている。

また、「愛称の普及に対する取組状況調査(全国水土里ネットH22.5.14)」によると、全国で会員数4,872に対し

2,393、約50%の水土里ネットが愛称を使用している結果となっている。一方で、外部運動に関しては取り組みが固定化している傾向にあり、全体的に運動の裾野が広がりつつある中で、水土里ネットの取り組みが二極化してきている。

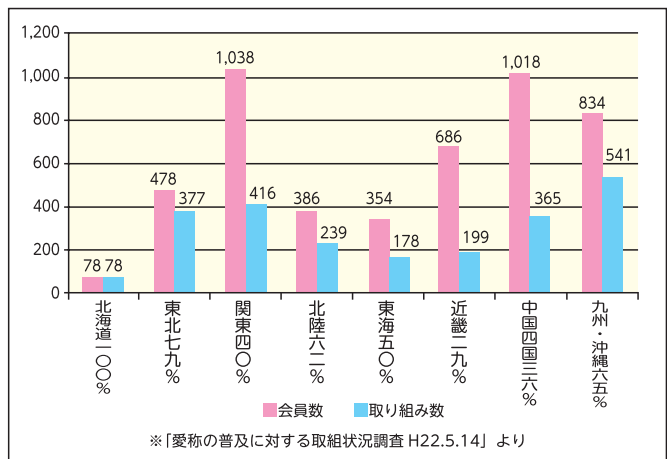
このため、同セミナーは全国の21創造運動担当者に対して、平成22年度21創造運動大賞受賞地区等の情報提供や意見交換を行い、21創造運動の持続的・安定的な推進と更なる拡大・浸透を図る目的で開催された。

セミナーは、はじめに農林水産省農村振興局農村政策部都市農村交流課の仲家課長より「都市と農村の交流による地域活性化について」と東京都板橋区ホテル飼育施設の阿部施設長より「農業用水及び休耕田を利用したホテル復活事業」の講演が行われた。続いて本年度21創造運動大賞を受賞された8水土里ネットから活動の事例発表が行われ、本県から受賞した水土里ネット稲川の阿部施設課長が地元の小中学校と連携した「どろんこ学校」の活動やゴミ捨て防止標語コンクールの開催、約30年ぶりに復活した紙芝居「よそうえもんぜき物語」の取り組みなどを紹介した。

その後、運動に取り組んで2年以内の水土里ネットを対象に平成19年度に創設された「さなえ賞」の表彰式が行われ、本県の水土里ネット七滝(武藤威理事長)をはじめ全国から7水土里ネットが表彰された。

また、2日目のパネルディスカッションでは21創造運動大賞受賞水土里ネットをパネリストに迎え、21創造運動の本質である「他団体との連携」と「地域づくりへの貢献」をテーマに行われた。

本セミナーは、各地域の活動情報を得て、全国の関係者との連携・交流を深めるとともに、21創造運動に関心はあるが最初の一步が踏み出せない水土里ネット、今後の更なる活動を目指している水土里ネットに方向性を示す有効な研修となった。



▲水土里ネット稲川 阿部施設課長



合併認可書伝達式



大館市土地改良区

1月21日、大館市の長木川水系4土地改良区が合併した「大館市土地改良区」の合併認可書伝達式が県北秋田地域振興局で行われ、合併設立委員会の小笠原委員長（旧大館市土地改良区理事長）に、北秋田地域振興局の川原局長から認可書が手渡された。

昨年8月20日に合併予備契約調印式を行い、設立委員会が12月17日に合併認可申請していたもので、新たに「大館市土地改良区」が誕生した。新土地改良区は、関係面積1,198ha、組合員数1,802名。2月中旬に総代選挙を行い、3月下旬には第1回総代会を開いて新役員を選出することとなっている。

○合併土地改良区（H23.1.21～）

- ・名称 **大館市土地改良区**
- ・代表者 **理事長 小笠原 利雄**
- ・住所 大館市字沼館道南40-12
- ・電話 0186-42-0558

○合併により解散した土地改良区 （H23.1.20付）

- ・大館市下川沿土地改良区
- ・大館市釈迦内土地改良区
- ・大館市花矢土地改良区
- ・大館市土地改良区



秋田県水土里情報利活用推進協議会

平成22年度通常総会を開催

12月7日（火）、平成22年度秋田県水土里情報利活用推進協議会通常総会が、本会第1会議室で行われた。総会では、平成21年度事業報告、平成21年度一般会計収支決算が承認され、また、平成22年度事業計画、平成22年度一般会計収支予算が議決された。

さらに、役員改選では、黒子会長（本会専務理事）、菅原副会長（県農地整備課長）、木村監事（県農業協同組合中央会 会長）、二田監事（県農業共済組合連合会 会長理事）が再選された。

なお、平成22年11月末現在の同協議会への会員数は144団体となっており、水土里情報システムの活用による県内農業農村の振興を図るため、会員の加入促進を図っていくことを確認した。

特集 農業水利施設内の「ゴミ」問題 シリーズ④

農業水利施設の「ゴミゼロ」対策に係る取りまとめ

(循環型社会の取り組みに向けた子供の思い、地域の願い、みんなで取り組みませんか)

ポスター完成!!

中学校の部 標語 最優秀賞

小学校の部 標語 最優秀賞



標語：水土里ネット稲川(稲川土地改良区)主催 「第7回ゴミ捨て防止標語コンクール」
 写真：平成22年度「ゴミゼロ」調査写真

検討会を開催

水土里ネット秋田の新たな支援業務として、各水土里ネットが管理する農業水利施設のゴミ発生状況調査結果を踏まえ、現状分析と今後の取り組みについて、「秋田県土地改良事業団体職員会役員」による意見交換会が行われた。

第1回検討会では、池田総務企画部長が、「土地改良区が管理する農業水利施設のゴミ問題に関する調査・研究を実施し、施設の維持管理費軽減と長寿命化を図る対策は、短期・中期・長期計画に分類整理し、長い時間を必要とする。初年度の実践活動は、ゴミ発生状況の調査とゴミ捨て防止に向けた啓発活動を考えており、地域に精通している皆様に検討委員をお願いした。今後、水土里ネットと連携して実態に即した活動を展開するためにも、忌憚のない意見をお願いしたい」と挨拶した。出席者からは、地域の実情が報告された。